技術の検証　【市単独事業により実施（Ｒ2年～）】

スマート農業の効果を検証（Ｒ2年の検証成果を高める：ドローン）

水稲や畑作物への防除作業において、ドローンと無人ヘリを組み合わせた作業時間の短縮効果に取り組むとともに、農薬の散布幅と散布ムラが生じるドローンの飛行位置を調査することで、作業効率性を更に高める。

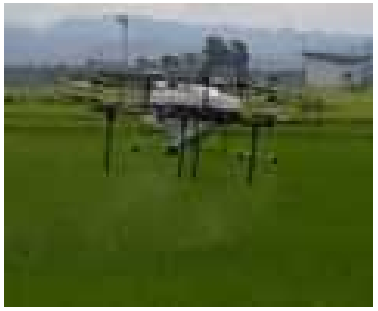
②-1　ドローンと無人ヘリの比較

【検証期間：令和5年度まで必要】

○ドローンの飛行高度を上げて飛行幅を広げる

※検証したほ場　　約98ａ

標準：飛行幅3.3m



・飛行距離　3,079m
・飛行時間　15分21秒
・電池交換　1回
・飛行面積　約0.8ｈａ

修正：飛行幅4.5m

・飛行距離　2,427m
・飛行時間　11分04秒
・電池交換　なし
・飛行面積　約1.2ｈａ

・飛行距離　手動で不明
・飛行時間　約4分30秒
・燃料交換　なし

※基盤整備後の区画は1.2ｈａ～2.0ｈａのため、１度に散布できることからドローンの散布効率も良い。

○令和3年度に取組検証予定

実施予定地：美唄市試験ほ場

○協議会会員のうち、ＪＡと農業改良普及センター、農政課が美唄市農業技術員連絡協議会と連携して美唄市試験圃場で検証。

・飛行幅を広げたことで、散布ムラが発生していないか
・品目（水稲、大豆など）で散布ムラの差が生じるか